



北陸3県の 法人企業景気予測調査

(第83回 令和6年10—12月期調査)

【 調査時点：令和6年11月15日 】

令和6年12月11日
財務省 北陸財務局

連絡・お問合せ先
財務省 北陸財務局 経済調査課
金沢市新神田4丁目3番10号
T e l . (076) 292-7858

〔調査の要領〕

1. 調査の目的と根拠

この調査は、我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として年4回実施しているものである。

2. 調査時点 令和6年11月15日

3. 調査対象期間

判断項目	6年10～12月期及び12月末見込み 7年1～3月期及び3月末見通し 7年4～6月期及び6月末見通し
計数項目	6年度実績見込み

4. 調査対象企業の選定

北陸3県内に所在する資本金1千万円以上の法人企業で、法人企業統計調査（四半期別）の標本企業から無作為抽出した。なお、毎年4月に抽出替えを行っている。

5. 調査方法

対象企業に調査票を郵送、またはオンラインでの入力を依頼し、自計記入を求める方法によった。

6. 集計の方法

日本標準産業分類に則した業種分類による単純集計を行った。

(調査対象企業数及び回収状況)

		全 規 模			
		大 企 業	中 堅 企 業	中 小 企 業	
全 産 業	調査企業数	372	90	80	202
	回答企業数	357	89	76	192
	回収率 %	96.0	98.9	95.0	95.0
製 造 業	調査企業数	149	44	30	75
	回答企業数	147	44	29	74
	回収率 %	98.7	100.0	96.7	98.7
非 製 造 業	調査企業数	223	46	50	127
	回答企業数	210	45	47	118
	回収率 %	94.2	97.8	94.0	92.9

- (注) 1. 本調査において、大企業とは資本金10億円以上、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。
2. 令和6年奥能登豪雨を受けて、石川県能登地方の被害が大きかった地域に所在する法人(4社)については、調査票の発送を見合わせた。

(参 考)

【 B S I (Business Survey Index) の見方 】

$$B S I = (\text{「上昇」等と回答した企業の構成比}) - (\text{「下降」等と回答した企業の構成比})$$

B S I が+の場合は「上昇」等が「下降」等より強く、景気等は上昇過程にあるものと判断され、-の場合はその逆を表す。

また、値の大きさはその強さを示している。

(例) 「景況判断」の場合

- 前期と比べて・「上昇」と回答した企業の構成比 …… 30.0%
- ・「不変」と回答した企業の構成比 …… 40.0%
- ・「下降」と回答した企業の構成比 …… 20.0%
- ・「不明」と回答した企業の構成比 …… 10.0%

$$B S I = 30.0 - 20.0 = 10.0\% \text{ポイント} \rightarrow 10.0\% \text{ポイントの「上昇」超}$$

◆ 次回公表予定 (令和7年1-3月期調査)

令和7年3月12日(水)

[調査の結果]

1. 景況判断

(1) 企業の景況・・・現状判断は「上昇」超、先行き見通し（7年1～3月期）は「下降」超

[現状判断（6年10～12月期）]

企業の景況判断BSI（前期比「上昇」－「下降」社数構成比、原数値）をみると、製造業が「下降」超となっているものの、非製造業が「上昇」超となっていることから、全産業では「上昇」超となっている。

業種別では、製造業は、「食料品」、「情報通信機械器具」等が「下降」超、「化学工業」等が「上昇」超となっている。非製造業は、「情報通信」、「建設」等が「上昇」超、「その他のサービス」等が「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中小企業が「上昇」超、中堅企業が「下降」超となっている。

[先行き見通し（7年1～3月期）]

製造業が「上昇」と「下降」が均衡し、非製造業が「下降」超となっていることから、全産業では「下降」超となる見通しとなっている。

業種別では、製造業は、「非鉄金属」等が「上昇」超、「パルプ・紙・紙加工品」等が「下降」超となる見通しとなっている。非製造業は、「小売」等が「下降」超となる見通しとなっている。

[先行き見通し（7年4～6月期）]

全産業では「下降」超となる見通しとなっている。

企業の景況判断BSI（原数値）

（前期比「上昇」－「下降」社数構成比）

（単位：％ポイント）

区 分	6年7～9月 前回調査	6年10～12月 現状判断	7年1～3月 見通し	7年4～6月 見通し
全 産 業	▲ 5.9	(8.4) 0.6	(4.2) ▲ 0.3	▲ 2.2
製 造 業	▲ 13.2	(11.1) ▲ 9.5	(4.2) 0.0	▲ 2.0
非 製 造 業	▲ 0.9	(6.6) 7.6	(4.2) ▲ 0.5	▲ 2.4
規 模 別				
大 企 業	4.4	(10.0) 3.4	(5.6) 1.1	3.4
中 堅 企 業	2.6	(15.8) ▲ 5.3	(6.6) ▲ 2.6	1.3
中 小 企 業	▲ 14.1	(4.7) 1.6	(2.6) 0.0	▲ 6.3

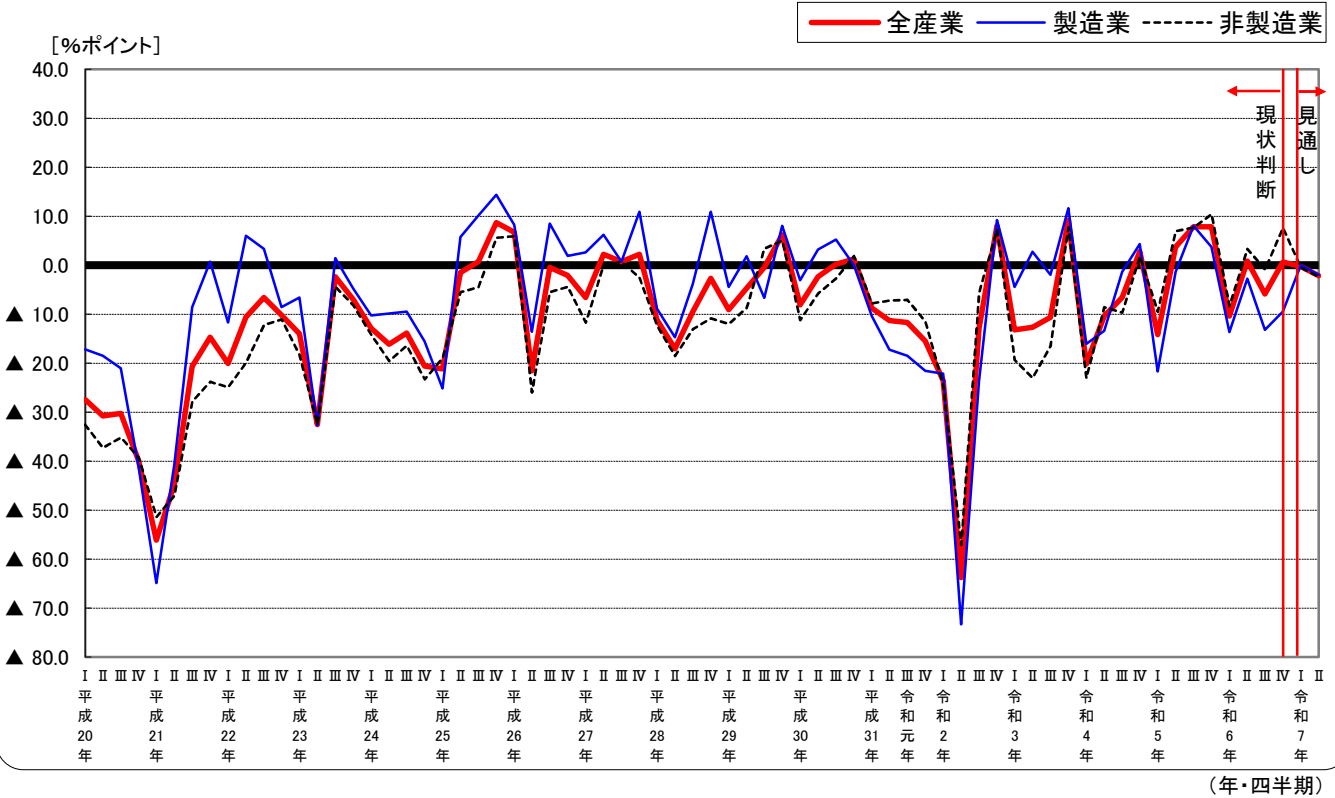
(注) 6年10～12月、7年1～3月の（ ）は前回調査時の見通し。

(単位：%ポイント)

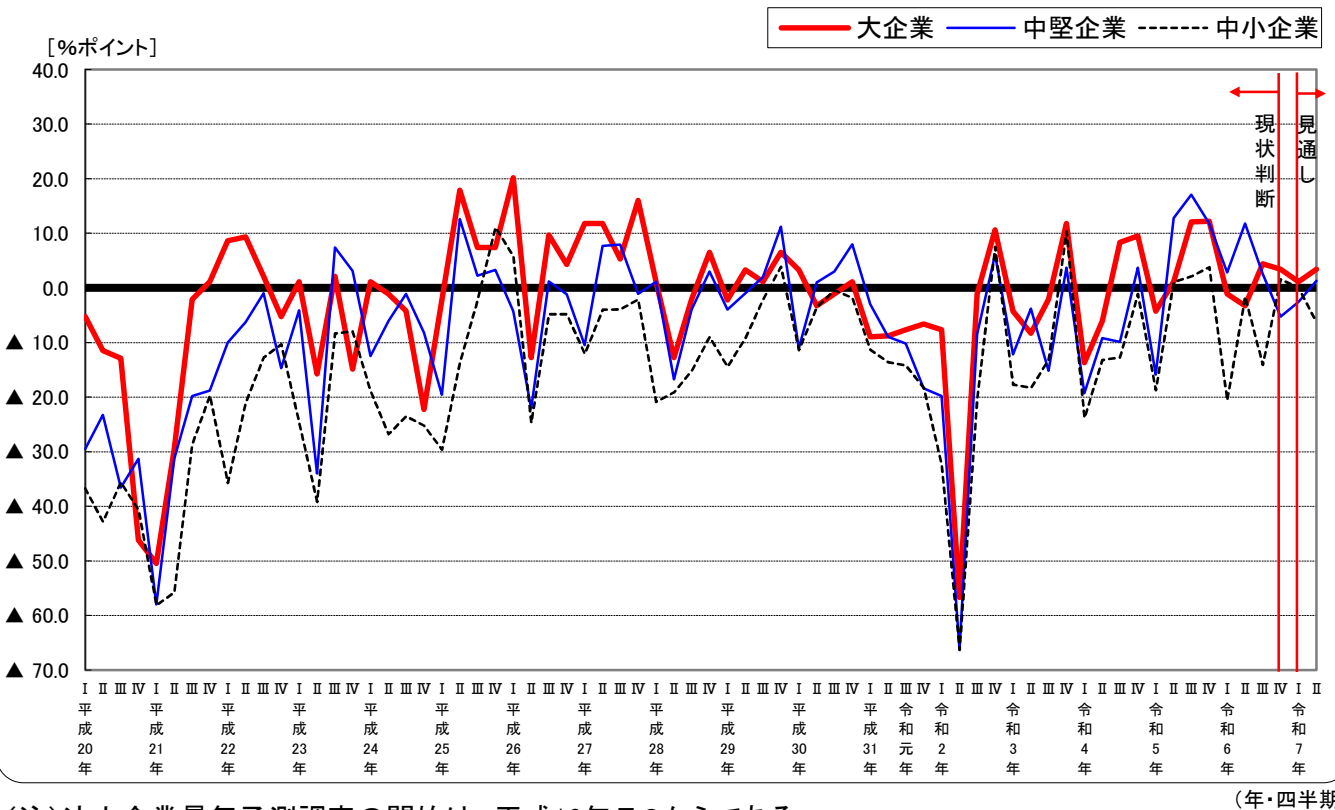
業種別	期間別	6年	6年	7年	7年
		7～9月 (前回調査)	10～12月 現状判断	1～3月 見通し	4～6月 見通し
企業の 景況判断 B S I (前期比「上昇」 「下降」) 社数構成比	《 全産業 》	(▲ 5.9)	0.6	▲ 0.3	▲ 2.2
	[製造業]	(▲ 13.2)	▲ 9.5	0.0	▲ 2.0
	食料品製造業	(▲ 50.0)	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 37.5
	繊維工業	(▲ 17.6)	▲ 5.9	0.0	17.6
	木材・木製品製造業	(▲ 20.0)	20.0	20.0	▲ 20.0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	(▲ 50.0)	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 25.0
	化学工業	(18.2)	41.7	8.3	0.0
	石油製品・石炭製品製造業	(▲ 40.0)	0.0	20.0	▲ 20.0
	窯業・土石製品製造業	(▲ 25.0)	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 12.5
	鉄鋼業	(▲ 60.0)	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0
	非鉄金属製造業	(▲ 50.0)	25.0	25.0	25.0
	金属製品製造業	(7.7)	▲ 7.7	0.0	0.0
	はん用機械器具製造業	(0.0)	▲ 28.6	14.3	▲ 28.6
	生産用機械器具製造業	(▲ 30.0)	▲ 20.0	10.0	10.0
	業務用機械器具製造業	(0.0)	100.0	0.0	▲ 100.0
	電気機械器具製造業	(50.0)	0.0	▲ 25.0	25.0
	情報通信機械器具製造業	(▲ 10.0)	▲ 30.0	10.0	20.0
	自動車・同附属品製造業	(66.7)	33.3	0.0	▲ 16.7
	その他の輸送用機械器具製造業	(0.0)	0.0	0.0	0.0
	その他製造業	(▲ 15.0)	▲ 27.3	0.0	▲ 4.5
	[非製造業]	(▲ 0.9)	7.6	▲ 0.5	▲ 2.4
	農林水産業	(0.0)	0.0	0.0	0.0
	鉱業、採石業、砂利採取業	(0.0)	42.9	14.3	28.6
	建設業	(▲ 2.9)	11.8	5.9	▲ 11.8
	電気・ガス・水道業	(16.7)	▲ 16.7	16.7	0.0
	情報通信業	(0.0)	31.3	12.5	▲ 6.3
	運輸業、郵便業	(6.7)	20.0	▲ 13.3	▲ 6.7
	卸売業	(▲ 8.3)	0.0	▲ 4.3	▲ 4.3
	小売業	(▲ 11.1)	▲ 5.6	▲ 11.1	5.6
	不動産業	(10.5)	▲ 5.0	5.0	▲ 10.0
	リース業	(▲ 50.0)	▲ 50.0	0.0	0.0
	その他の物品賃貸業	(0.0)	33.3	66.7	33.3
	宿泊業、飲食サービス業	(▲ 25.0)	25.0	12.5	25.0
	生活関連サービス業	(▲ 33.3)	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3
娯楽業	(50.0)	25.0	▲ 25.0	0.0	
学術研究、専門・技術サービス業	(4.8)	19.0	0.0	▲ 4.8	
医療、教育	(▲ 100.0)	0.0	▲ 50.0	50.0	
職業紹介・労働者派遣業	(100.0)	100.0	0.0	0.0	
その他のサービス業	(20.0)	▲ 10.0	▲ 10.0	0.0	
金融業、保険業	(▲ 6.3)	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 6.7	

(注) () は前回調査時の現状判断。

◀ 北陸3県の景況判断BSIの推移（産業別） ▶



◀ 北陸3県の景況判断BSIの推移（規模別） ▶



(注) 法人企業景気予測調査の開始は、平成16年ⅡQからである。

(2) 企業の景況判断の決定要因

6年10～12月期の景況判断の決定要因（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、次のとおりとなっている。

企業の景況判断の決定要因
(上昇要因)

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	国内需要（売上）	88.1	販売価格	29.9	仕入価格	14.9	
製造業	国内需要（売上）	76.0	販売価格	36.0	海外需要（売上）	28.0	
非製造業	国内需要（売上）	95.2	販売価格	26.2	仕入価格	14.3	
規模別	大企業	国内需要（売上）	71.4	販売価格	35.7	海外需要（売上）	28.6
	中堅企業	国内需要（売上）	90.0	海外需要（売上） その他	10.0	-	-
	中小企業	国内需要（売上）	93.0	販売価格	34.9	仕入価格	20.9

(下降要因)

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	国内需要（売上）	92.1	仕入価格	46.0	仕入以外のコスト	38.1	
製造業	国内需要（売上）	92.3	仕入価格	51.3	仕入以外のコスト	41.0	
非製造業	国内需要（売上）	91.7	販売価格 仕入価格	37.5	-	-	
規模別	大企業	国内需要（売上）	90.0	海外需要（売上）	50.0	販売価格 仕入以外のコスト	40.0
	中堅企業	国内需要（売上）	92.3	仕入価格 仕入以外のコスト	46.2	-	-
	中小企業	国内需要（売上）	92.5	仕入価格	52.5	販売価格	40.0

(注1) 「金融業、保険業」は調査対象外。

(注2) 回答社数構成比である。

選択項目

1 国内需要(売上)	5 仕入以外のコスト	9 税制・会計制度等
2 海外需要(売上)	6 資金繰り・資金調達	10 その他
3 販売価格	7 株式・不動産等の資産価格	
4 仕入価格	8 為替レート	

2. 売上高（除く「電気・ガス・水道業」）・・・6年度は増収見込み

6年度は、製造業、非製造業ともに増収見込みとなっている。
業種別では、製造業は、「情報通信機械器具」、「金属製品」等が増収見込み、「窯業・土石製品」等が減収見込みとなっている。非製造業は、「小売」、「卸売」等が増収見込みとなっている。

（前年度比増減率、単位：％）

		全産業		
			製造業	非製造業
売上高	6年度	(3.4)	(3.3)	(3.6)
		4.4	3.4	6.2

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		(3.4)	(4.4)	(▲0.0)
		4.0	6.5	1.3

（注1）「金融業、保険業」は調査対象外。

（注2）（ ）は前回調査結果。

3. 経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」） ・・・6年度は増益見込み

6年度は、製造業は減益見込み、非製造業は増益見込み、全産業では増益見込みとなっている。

業種別では、製造業は、「繊維工業」、「金属製品」等が減益見込み、「情報通信機械器具」等が増益見込みとなっている。非製造業は、「学術研究、専門・技術サービス」、「小売」等が増益見込み、「情報通信」等が減益見込みとなっている。

（前年度比増減率、単位：％）

		全産業		
			製造業	非製造業
経常利益	6年度	(▲4.4)	(▲9.7)	(8.8)
		1.0	▲9.6	33.8

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		(▲6.8)	(4.9)	(▲10.9)
		▲1.7	12.2	▲9.5

（注）（ ）は前回調査結果。

売上高（除く「電気・ガス・水道業」）及び
経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

（前年度比増減率、単位：％）

区 分	【 売上高 】 6年度	【 経常利益 】 6年度
≪ 全産業 ≫	4.4	1.0
[製造業]	3.4	▲ 9.6
食料品製造業	▲ 7.6	▲ 79.3
繊維工業	4.0	▲ 22.2
木材・木製品製造業	▲ 1.8	▲ 92.1
パルプ・紙・紙加工品製造業	3.3	24.6
化学工業	4.6	▲ 5.5
石油製品・石炭製品製造業	▲ 10.6	▲ 52.1
窯業・土石製品製造業	▲ 0.6	▲ 15.3
鉄鋼業	6.5	103.7
非鉄金属製造業	5.5	▲ 37.7
金属製品製造業	3.6	▲ 13.2
はん用機械器具製造業	0.4	15,555.6
生産用機械器具製造業	4.7	▲ 4.2
業務用機械器具製造業	X	X
電気機械器具製造業	1.1	黒字化
情報通信機械器具製造業	5.8	9.5
自動車・同附属品製造業	0.2	▲ 19.3
その他の輸送用機械器具製造業	X	X
その他製造業	3.1	▲ 10.3
[非製造業]	6.2	33.8
農林水産業	X	X
鉱業、採石業、砂利採取業	4.4	179.2
建設業	4.6	6.3
情報通信業	4.8	▲ 7.4
運輸業、郵便業	8.9	15.5
卸売業	5.4	▲ 2.3
小売業	4.9	14.2
不動産業	5.0	9.3
リース業	…	…
その他の物品賃貸業	X	X
宿泊業、飲食サービス業	X	X
生活関連サービス業	2.3	X
娯楽業	X	X
学術研究、専門・技術サービス業	29.9	158.7
医療、教育	X	X
職業紹介・労働者派遣業	X	X
その他のサービス業	4.0	34.3

参考（含む「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

（前年度比増減率、単位：％）

≪ 全産業 ≫	4.4	9.3
[非製造業]	6.2	39.0
電気・ガス・水道業	5.4	赤字縮小
金融業、保険業		42.5

（注1）売上高については「金融業、保険業」は調査対象外。

（注2）業種別の回答社数が3社未満の場合、Xで表示。

（注3）数字が得られない場合、…で表示。

4. 今年度における経常利益の要因

今年度における経常利益の要因（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、全産業では「販売数量・提供数量」と回答した企業が最も多く、次いで「販売単価・提供単価」、「人件費」の順となっている。

今年度における経常利益の要因

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	販売数量・提供数量	70.5	販売単価・提供単価	56.4	人件費	51.0	
製造業	販売数量・提供数量	76.7	販売単価・提供単価	64.3	人件費	45.7	
非製造業	販売数量・提供数量	65.7	人件費	55.0	販売単価・提供単価	50.3	
規模別	大企業	販売数量・提供数量	65.1	販売単価・提供単価	53.0	人件費	38.6
	中堅企業	販売数量・提供数量	59.1	人件費	57.6	販売単価・提供単価	51.5
	中小企業	販売数量・提供数量	78.5	販売単価・提供単価	60.4	人件費	55.0

（注）回答社数構成比である。

選択項目

1 販売数量・提供数量	5 人件費及び資源・エネルギー価格以外の価格	9 資産の償却・評価(債権償却を含む)
2 販売単価・提供単価	6 為替相場	10 その他
3 人件費	7 受取利息及び受取配当金	
4 資源・エネルギー価格	8 支払利息	

5. 設備投資（除く「電気・ガス・水道業」）・・・6年度は増加見込み

6年度は、製造業は増加見込み、非製造業は減少見込み、全産業では増加見込みとなっている。

業種別では、製造業は、「情報通信機械器具」、「自動車・同附属品」等が増加見込み、「化学工業」等が減少見込みとなっている。非製造業は、「金融、保険」、「運輸、郵便」等が減少見込み、「小売」等が増加見込みとなっている。

（前年度比増減率、単位：％）

		全産業		
			製造業	非製造業
設備投資	6年度	(11.8)	(28.5)	(▲ 13.5)
		10.0	24.7	▲ 14.8

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		(12.0)	(22.1)	(▲ 33.0)
		8.7	23.3	▲ 13.7

（注1）ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。

（注2）（ ）は前回調査結果。

6. 生産・販売などのための設備・・・現状判断は「不足」超、先行き見通し（7年3月末）も「不足」超

6年12月末時点の設備判断BSI（期末判断「不足」－「過大」社数構成比、原数値）をみると、業種別では、製造業は「過大」超、非製造業は「不足」超となっている。規模別では、大企業は「過大」超、中堅企業は「不足」と「過大」が均衡しており、中小企業は「不足」超となっている。

先行きをみると、7年3月末時点は、製造業が「過大」超となっているものの、非製造業が「不足」超となっていることから、全産業では「不足」超の見通しとなっている。

7年6月末時点は、全産業では「不足」超の見通しとなっている。

生産・販売などのための設備判断BSI（原数値）

（期末判断「不足」－「過大」社数構成比）

（単位：％ポイント）

区 分		6年9月末 前回調査	6年12月末 現状判断	7年3月末 見通し	7年6月末 見通し
全 産 業		4.3	(5.3) 2.3	(5.9) 1.3	3.9
	製 造 業	1.6	(3.1) ▲ 3.7	(5.4) ▲ 5.2	3.7
	非 製 造 業	6.3	(6.9) 6.9	(6.3) 6.3	4.0
規 模 別	大 企 業	▲ 5.9	(▲ 2.4) ▲ 4.8	(▲ 1.2) ▲ 4.8	0.0
	中 堅 企 業	9.1	(9.1) 0.0	(13.6) 0.0	4.5
	中 小 企 業	7.8	(7.8) 6.9	(6.5) 5.0	5.7

（注）6年12月末、7年3月末の（ ）は前回調査時の見通し。

設備投資（除く「電気・ガス・水道業」）

（前年度比増減率、単位：％）

区 分	6年度
《 全産業 》	10.0
[製造業]	24.7
食料品製造業	62.0
繊維工業	30.9
木材・木製品製造業	▲ 93.9
パルプ・紙・紙加工品製造業	44.9
化学工業	▲ 11.2
石油製品・石炭製品製造業	24.0
窯業・土石製品製造業	▲ 12.5
鉄鋼業	▲ 45.5
非鉄金属製造業	▲ 10.1
金属製品製造業	15.5
はん用機械器具製造業	12.3
生産用機械器具製造業	43.7
業務用機械器具製造業	X
電気機械器具製造業	▲ 8.9
情報通信機械器具製造業	29.8
自動車・同附属品製造業	48.5
その他の輸送用機械器具製造業	X
その他製造業	64.6
[非製造業]	▲ 14.8
農林水産業	X
鉱業、採石業、砂利採取業	▲ 63.4
建設業	▲ 8.5
情報通信業	22.7
運輸業、郵便業	▲ 28.4
卸売業	21.7
小売業	13.1
不動産業	▲ 12.5
リース業	…
その他の物品賃貸業	X
宿泊業、飲食サービス業	X
生活関連サービス業	皆減
娯楽業	X
学術研究、専門・技術サービス業	▲ 31.9
医療、教育	X
職業紹介・労働者派遣業	X
その他のサービス業	43.2
金融業、保険業	▲ 30.2

参考（含む「電気・ガス・水道業」）

（前年度比増減率、単位：％）

《 全産業 》	7.8
[非製造業]	▲ 17.9
電気・ガス・水道業	▲ 49.5

（注1）ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。

（注2）業種別の回答社数が3社未満の場合、Xで表示。

（注3）数字が得られない場合、…で表示。

7. 今年度における設備投資のスタンス

今年度における設備投資のスタンス（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、全産業では「維持更新」と回答した企業が最も多く、次いで「省力化合理化」、「生産（販売）能力の拡大」の順となっている。

今年度における設備投資のスタンス

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	維持更新	57.4	省力化合理化	50.7	生産（販売）能力の拡大	50.0	
製造業	省力化合理化	65.1	維持更新	57.9	生産（販売）能力の拡大	56.3	
非製造業	維持更新	57.1	生産（販売）能力の拡大	44.9	製（商）品・サービスの質的向上	42.9	
規模別	大企業	維持更新	63.1	省力化合理化	51.2	生産（販売）能力の拡大	41.7
	中堅企業	維持更新	60.9	省力化合理化	56.3	生産（販売）能力の拡大	43.8
	中小企業	生産（販売）能力の拡大	58.2	維持更新	52.2	製（商）品・サービスの質的向上	48.5

（注）回答社数構成比である。

選択項目

1 生産（販売）能力の拡大	5 環境対策	9 維持更新
2 製（商）品・サービスの質的向上	6 海外投資	10 その他
3 情報化への対応	7 研究開発	
4 省力化合理化	8 新事業への進出	

8. 従業員数・・・現状判断は「不足気味」超、先行きも「不足気味」超の見通し

6年12月末時点の従業員数判断BSI（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比、原数値）をみると、業種別、規模別ともに「不足気味」超となっている。

先行きをみると、7年3月末時点も、製造業、非製造業ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

7年6月末時点も、全産業では「不足気味」超の見通しとなっている。

従業員数判断BSI（原数値）

（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比）

（単位：%ポイント）

区 分	6年9月末 前回調査	6年12月末 現状判断	7年3月末 見通し	7年6月末 見通し
全 産 業	34.7	(33.4) 34.1	(30.9) 31.9	26.5
製 造 業	27.7	(26.2) 25.2	(23.8) 22.2	23.7
非製造業	39.6	(38.5) 40.7	(35.8) 39.0	28.6
規 模 別				
大 企 業	22.1	(22.1) 23.3	(17.4) 22.1	15.1
中 堅 企 業	49.3	(44.8) 46.3	(40.3) 40.3	29.9
中 小 企 業	35.4	(34.8) 34.8	(34.1) 33.5	31.1

（注）6年12月末、7年3月末の（ ）は前回調査時の見通し。

(単位：%ポイント)

項目別 規模別	業種別 期間別	全産業				製造業				非製造業			
		6年 7～9月 (前回調査)	6年 10～12月 現状判断	7年 1～3月 見通し	7年 4～6月 見通し	6年 7～9月 (前回調査)	6年 10～12月 現状判断	7年 1～3月 見通し	7年 4～6月 見通し	6年 7～9月 (前回調査)	6年 10～12月 現状判断	7年 1～3月 見通し	7年 4～6月 見通し
① 貴社の景況 「上昇」-「下降」	全規模	(▲5.9)	0.6	▲0.3	▲2.2	(▲13.2)	▲9.5	0.0	▲2.0	(▲0.9)	7.6	▲0.5	▲2.4
	大企業	(4.4)	3.4	1.1	3.4	(0.0)	2.3	0.0	9.1	(8.7)	4.4	2.2	▲2.2
	中堅企業	(2.6)	▲5.3	▲2.6	1.3	(▲7.1)	▲17.2	6.9	20.7	(8.3)	2.1	▲8.5	▲10.6
	中小企業	(▲14.1)	1.6	0.0	▲6.3	(▲23.6)	▲13.5	▲2.7	▲17.6	(▲8.4)	11.0	1.7	0.8
② 国内の景況 「上昇」-「下降」	全規模	(▲4.7)	▲3.0	▲5.4	▲1.0	(▲9.4)	▲4.5	▲7.5	▲0.8	(▲1.2)	▲1.8	▲3.6	▲1.2
	大企業	(8.2)	4.7	▲1.2	4.7	(9.5)	2.3	▲2.3	4.7	(7.0)	7.1	0.0	4.8
	中堅企業	(7.6)	▲7.6	▲1.5	6.1	(▲4.0)	▲7.7	▲3.8	15.4	(14.6)	▲7.5	0.0	0.0
	中小企業	(▲17.9)	▲5.4	▲9.5	▲7.4	(▲25.0)	▲7.8	▲12.5	▲10.9	(▲12.9)	▲3.6	▲7.1	▲4.8
③※ 生産・販売などのための 設備 「不足」-「過大」	全規模	(4.3)	2.3	1.3	3.9	(1.6)	▲3.7	▲5.2	3.7	(6.3)	6.9	6.3	4.0
	大企業	(▲5.9)	▲4.8	▲4.8	0.0	(▲16.3)	▲11.6	▲11.6	▲2.3	(4.8)	2.4	2.4	2.4
	中堅企業	(9.1)	0.0	0.0	4.5	(8.0)	▲11.5	▲11.5	3.8	(9.8)	7.5	7.5	5.0
	中小企業	(7.8)	6.9	5.0	5.7	(11.5)	4.6	1.5	7.7	(5.4)	8.5	7.4	4.3
④※ 従業員数 「不足気味」 -「過剰気味」	全規模	(34.7)	34.1	31.9	26.5	(27.7)	25.2	22.2	23.7	(39.6)	40.7	39.0	28.6
	大企業	(22.1)	23.3	22.1	15.1	(14.0)	16.3	14.0	4.7	(30.2)	30.2	30.2	25.6
	中堅企業	(49.3)	46.3	40.3	29.9	(36.0)	34.6	23.1	26.9	(57.1)	53.7	51.2	31.7
	中小企業	(35.4)	34.8	33.5	31.1	(33.9)	27.3	27.3	34.8	(36.3)	39.8	37.8	28.6

(注1) ()は前回調査時の現状判断。

(注2) ※は、期末判断項目。

石川県内の法人企業景気予測調査 (第83回 令和6年10-12月期調査)

令和6年12月11日
財務省北陸財務局

(調査対象企業数及び回収状況)

		全規模			
		大企業	中堅企業	中小企業	
全産業	調査企業数	135	33	26	76
	回答企業数	128	32	24	72
	回収率 %	94.8	97.0	92.3	94.7
製造業	調査企業数	49	17	6	26
	回答企業数	48	17	6	25
	回収率 %	98.0	100.0	100.0	96.2
非製造業	調査企業数	86	16	20	50
	回答企業数	80	15	18	47
	回収率 %	93.0	93.8	90.0	94.0

(注) 本調査において、大企業とは資本金10億円以上、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

企業の景況判断BSI(原数値)

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

区 分		6年7~9月	6年10~12月	7年1~3月	7年4~6月
		前回調査	現状判断	見通し	見通し
全産業		▲ 4.6	(16.0)	(3.8)	▲ 2.3
	製造業	▲ 6.3	(27.1)	(8.3)	▲ 2.1
	非製造業	▲ 3.6	(9.6)	(1.2)	▲ 2.5
規模別	大企業	▲ 3.0	(24.2)	(3.0)	3.1
	中堅企業	4.0	(28.0)	(8.0)	0.0
	中小企業	▲ 8.2	(8.2)	(2.7)	▲ 5.6

(注)6年10~12月、7年1~3月の()は前回調査時の見通し。

企業の景況判断の決定要因

(上昇要因)

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	国内需要(売上)	82.8	販売価格	20.7	その他	17.2	
	製造業	国内需要(売上)	66.7	海外需要(売上)	33.3	仕入価格 その他	22.2
	非製造業	国内需要(売上)	90.0	販売価格	25.0	資金繰り・資金調達 その他	15.0
規模別	大企業	国内需要(売上)	75.0	海外需要(売上)	37.5	販売価格	25.0
	中堅企業	国内需要(売上)	75.0	その他	25.0	—	—
	中小企業	国内需要(売上)	88.2	販売価格 その他	23.5	—	—

選択項目

- 1:国内需要(売上)
- 2:海外需要(売上)
- 3:販売価格
- 4:仕入価格
- 5:仕入以外のコスト
- 6:資金繰り・資金調達
- 7:株式・不動産等の資産価格
- 8:為替レート
- 9:税制・会計制度等
- 10:その他

(下降要因)

区 分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	国内需要(売上)	95.5	仕入価格	40.9	販売価格	36.4	
	製造業	国内需要(売上)	92.3	仕入価格	46.2	販売価格	38.5
	非製造業	国内需要(売上)	100.0	※	33.3	—	—
規模別	大企業	国内需要(売上)	100.0	海外需要(売上) 販売価格	66.7	—	—
	中堅企業	国内需要(売上)	100.0	仕入以外のコスト	75.0	仕入価格	25.0
	中小企業	国内需要(売上)	93.3	仕入価格	53.3	販売価格	40.0

※ 販売価格
仕入価格
仕入以外のコスト

(注1)「金融業、保険業」は調査対象外。

(注2)10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

売上高 (前年度比増減率、単位:%)

		全産業		
		製造業	非製造業	
売上高	6年度	(5.6)	(6.3)	(4.5)
		7.8	6.6	9.6

	大企業	中堅企業	中小企業
規模別	(7.1)	(2.6)	(5.5)
	7.7	7.6	11.3

(注1)「電気・ガス・水道業」を除く。また、「金融業、保険業」は調査対象外。
(注2)()は前回調査結果。

経常利益 (前年度比増減率、単位:%)

		全産業		
		製造業	非製造業	
経常利益	6年度	(28.1)	(21.7)	(39.3)
		54.7	17.9	155.4

	大企業	中堅企業	中小企業
規模別	(37.5)	(3.0)	(39.5)
	73.2	10.6	130.9

(注1)「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」を除く。
(注2)()は前回調査結果。

設備投資 (前年度比増減率、単位:%)

		全産業		
			製造業	非製造業
設備投資	6年度	(1.3)	(25.3)	(▲36.6)
		8.9	32.6	▲29.7

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		(3.7)	(▲30.1)	(0.8)
		11.1	▲20.8	▲8.4

(注1)「電気・ガス・水道業」を除く。
 (注2)ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。
 (注3) ()は前回調査結果。

生産・販売などのための設備判断BSI(原数値)
 (期末判断「不足」-「過大」社数構成比) (単位:%ポイント)

区分	6年9月末 前回調査	6年12月末 現状判断	7年3月末 見通し	7年6月末 見通し	
全産業	10.7	(8.9)	(6.3)		
		5.4	2.7	3.6	
	製造業	8.9	(6.7)	(4.4)	
		▲4.4	▲6.7	▲2.2	
非製造業	11.9	(10.4)	(7.5)		
		11.9	9.0	7.5	
規模別	大企業	▲6.3	(▲3.1)	(▲3.1)	
			▲6.5	▲3.2	0.0
	中堅企業	19.0	(14.3)	(14.3)	
		9.5	9.5	9.5	
中小企業	16.9	(13.6)	(8.5)		
		10.0	3.3	3.3	

(注)6年12月末、7年3月末の()は前回調査時の見通し。

今年度における設備投資スタンス

区分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	生産(販売)能力の拡大	53.8	維持更新	52.9	製(商)品・サービスの質的向上	40.4	
	製造業	生産(販売)能力の拡大	51.2	—	—	省力合理化	48.8
		維持更新	—	—	—	—	
非製造業	生産(販売)能力の拡大	55.7	維持更新	54.1	製(商)品・サービスの質的向上	42.6	
規模別	大企業	維持更新	63.3	情報化への対応	53.3	生産(販売)能力の拡大	50.0
	中堅企業	製(商)品・サービスの質的向上	55.0	生産(販売)能力の拡大	45.0	—	—
		維持更新	—	—	—	—	
中小企業	生産(販売)能力の拡大	59.3	維持更新	50.0	製(商)品・サービスの質的向上	40.7	

(注)10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

選択項目

- 1:生産(販売)能力の拡大
- 2:製(商)品・サービスの質的向上
- 3:情報化への対応
- 4:省力合理化
- 5:環境対策
- 6:海外投資
- 7:研究開発
- 8:新事業への進出
- 9:維持更新
- 10:その他

従業員数判断BSI(原数値)

(期末判断「不足気味」-「過剰気味」社数構成比) (単位:%ポイント)

区分	6年9月末 前回調査	6年12月末 現状判断	7年3月末 見通し	7年6月末 見通し	
全産業	41.7	(35.8)	(35.0)		
		35.3	31.0	25.0	
	製造業	37.0	(32.6)	(30.4)	
		26.1	19.6	15.2	
非製造業	44.6	(37.8)	(37.8)		
		41.4	38.6	31.4	
規模別	大企業	16.1	(19.4)	(16.1)	
			22.6	19.4	12.9
	中堅企業	63.6	(45.5)	(45.5)	
		54.5	40.9	36.4	
中小企業	46.3	(40.3)	(40.3)		
		34.9	33.3	27.0	

(注)6年12月末、7年3月末の()は前回調査時の見通し。

今年度における経常利益の要因

区分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	販売数量・提供数量	75.2	販売単価・提供単価	61.5	人件費	50.5	
	製造業	販売数量・提供数量	75.6	販売単価・提供単価	68.9	人件費	51.1
	非製造業	販売数量・提供数量	75.0	販売単価・提供単価	56.3	人件費	50.0
規模別	大企業	販売数量・提供数量	73.3	販売単価・提供単価	56.7	人件費	36.7
	中堅企業	人件費	66.7	販売数量・提供数量	61.9	—	—
				販売単価・提供単価	—	—	—
中小企業	販売数量・提供数量	81.0	販売単価・提供単価	63.8	人件費	51.7	

(注)10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

選択項目

- 1:販売数量・提供数量
- 2:販売単価・提供単価
- 3:人件費
- 4:資源・エネルギー価格
- 5:人件費及び資源・エネルギー価格以外の価格
- 6:為替相場
- 7:受取利息及び受取配当金
- 8:支払利息
- 9:資産の償却・評価(債権償却を含む)
- 10:その他